

75歳以上医療費2割化実施後 アンケート調査報告

2023/3/20



全日本民主医療機関連合会

問合せ TEL. 03-5842-6451

社保運動・政策部 担当 山本・久保田・正森

【助言いただいた専門家】

長友 薫輝（佛教大学 准教授）、井口 克郎（神戸大学大学院 准教授）、
村田 隆史（京都府立大学 准教授）

現役世代の負担減は800円/年に過ぎず、公費負担
の引き下げの額の方が多い。

窓口負担の見直しに係る財政影響

	給付費	後期高齢者支援金 (現役世代の負担軽減)	後期高齢者 保険料 (高齢者の負担軽減)	公費
上位20%の場合 課税所得64万円 収入単身240万円、複数360万円	▲1,240億円	▲470億円	▲120億円	▲650億円
上位25%の場合 課税所得45万円 収入単身220万円、複数340万円	▲1,750億円	▲670億円	▲170億円	▲920億円
上位30%の場合 課税所得28万円 収入単身200万円、複数320万円	▲2,290億円	▲880億円	▲220億円	▲1,200億円
上位38%の場合 課税所得あり 収入単身170万円、複数290万円	▲3,200億円	▲1,220億円	▲310億円	▲1,660億円
上位44%の場合 所得35万円 収入単身155万円、複数290万円	▲3,740億円	▲1,430億円	▲370億円	▲1,960億円

第134回社会保障審議会
医療保険部会資料
2020年11月19日より
抜粋・加工

現役世代の負担軽減は詭弁

(当事者の声)長生きは罪ですか？

二重、三重に負担が大きくなっています。長生きすることが悪いかのような、年金は減らされ受け取った年金すら右から左へ2ヶ月ももたずに貯蓄すら底をついて・・・物言えぬ弱者にばかり負担を強かず、高収入を得ている層からの平等な徴収を・・・

調査概要

1. 調査目的

1割から2割に負担が引きあがった75歳以上の高齢者を対象としたアンケートを実施し、医療費の窓口負担の負担感及び受診抑制などの受療権への影響を調査・公表する。

2. 調査対象者

1割から2割に負担が引きあがった75歳以上の高齢者但し、上記以外（1割や3割等）の回答も可とする。

3. 調査期間

2022年12月～2023年2月まで

4. 調査方法

全日本民医連が作成したアンケート用紙を使用。

アンケートの設問

1. あなたの年齢で当てはまる方にチェックして下さい。

75歳以上 74歳以下

2. あなたの医療費の負担割合で、当てはまるものにチェックして下さい。

1割 2割 3割 その他

3. 2022年10月以前の医療費の負担感について

とても重い 重い 普通 軽い とても軽い

4. あなたは、2022年10月から窓口負担が1割から2割に増えましたか？

はい いいえ

5. 医療費が2割になってからの負担感について

とても重い 重い 普通 軽い とても軽い

氏名: 電話番号:

<75歳以上医療費窓口負担(2割化実施後)アンケート>

1. あなたの年齢で当てはまる方にチェックして下さい。
1. 75歳以上 1. 74歳以下

2. あなたの医療費の負担割合で、当てはまるものにチェックして下さい。
1. 1割 1. 2割 1. 3割 1. その他

3. 2022年10月以前の医療費の負担感について、当てはまるものにチェックして下さい。
1. とても重い 1. 重い 1. 普通 1. 軽い 1. とても軽い

4. あなたは、2022年10月から窓口負担が1割から2割に増えましたか？
はい いいえ

5. 医療費が2割になってからの負担感について、当てはまるものにチェックして下さい。
1. とても重い 1. 重い 1. 普通 1. 軽い 1. とても軽い

6. 医療費が増えたことで、当てはまるもの(複数回答可)
今まで通り受診する 受診をためらうようになった
受診回数・薬を減らす 食費を削って受診する
交際費を削って受診する 水光熱費を節約して受診する
預金を切り崩して受診する これ以上、切りつめられない
家族に支援してもらおう このままでは受診できなくなる

7. 3年間の激変緩和措置として、医療費が3千円以上増加しない措置がとられます。
手続きについて(複数回答可)
①手続きしていない
②手続きは済んだ
③手続きの仕方が分からない
④手続きが複雑で戸惑った

8. 3年後、緩和措置が終了し完全2割負担となります。
3年後を予想して、当てはまりそうなもの(複数回答可)
⑤いままで通り受診できると思う
⑥受診できなくなるかもしれない
⑦受診回数・薬を減らすと思う
⑧受診できなくなると思う

9. 医療費について自由にお書きください。

以上で、ご協力ありがとうございます。

6. 医療費が増えたことで、当てはまるもの(複数回答可)

- ①今まで通り受診する
- ②受診をためらうようになった
- ③受診回数・薬を減らす
- ④食費を削って受診する
- ⑤交際費を削って受診する
- ⑥水光熱費を節約して受診する
- ⑦預金を切り崩して受診する
- ⑧これ以上、切りつめられない
- ⑨家族に支援してもらおう
- ⑩このままでは受診できなくなる

7. 3年間の激変緩和措置として、医療費が3千円以上増加しない措置がとられます。

手続きについて(複数回答可)

- ①手続きしていない
- ②手続きは済んだ
- ③手続きの仕方が分からない
- ④手続きが複雑で戸惑った

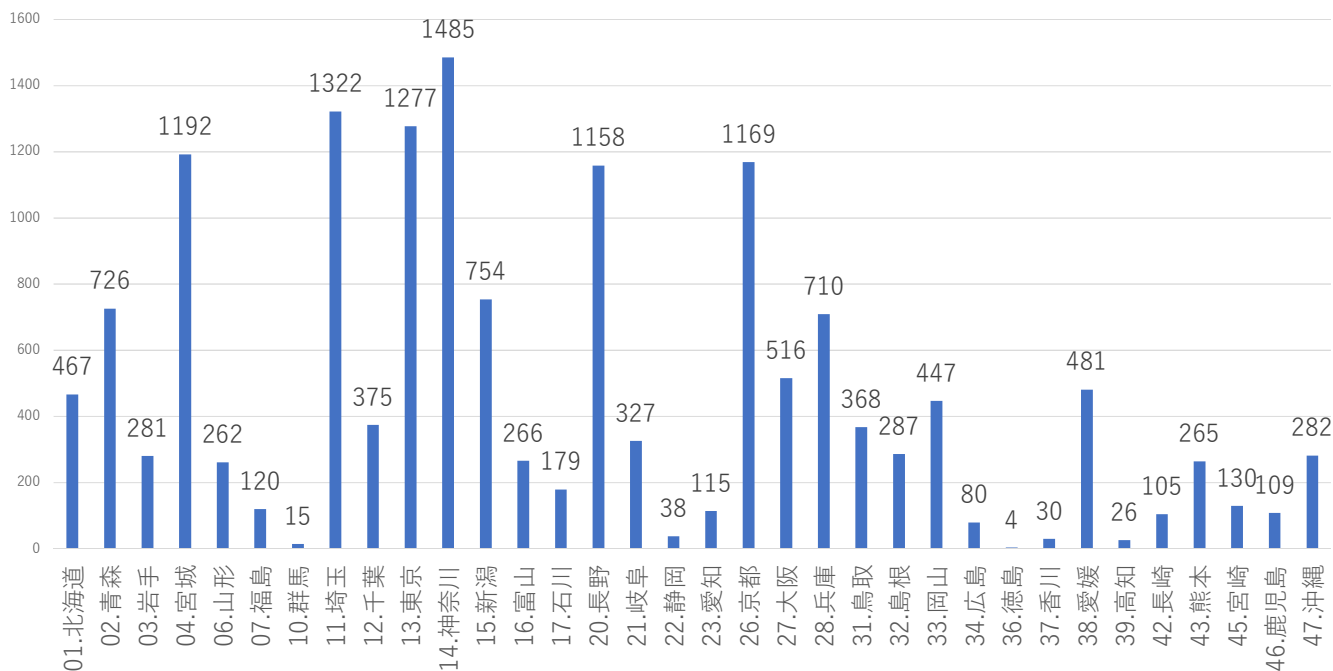
8. 3年後、緩和措置が終了し完全2割負担となります。

3年後を予想して、当てはまりそうなもの(複数回答可)

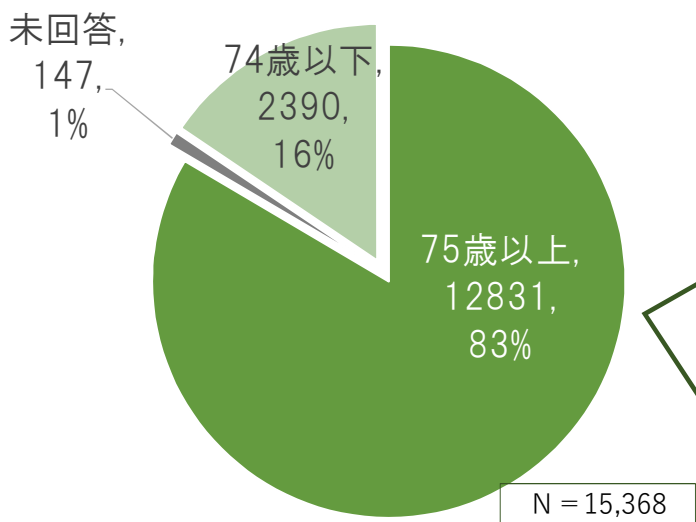
- ⑤いままで通り受診できると思う
- ⑥受診できなくなるかもしれない
- ⑦受診回数・薬を減らすと思う
- ⑧受診できなくなると思う

9. 医療費について自由にお書きください。

都道府県別回答数 15,368件(34都道府県)

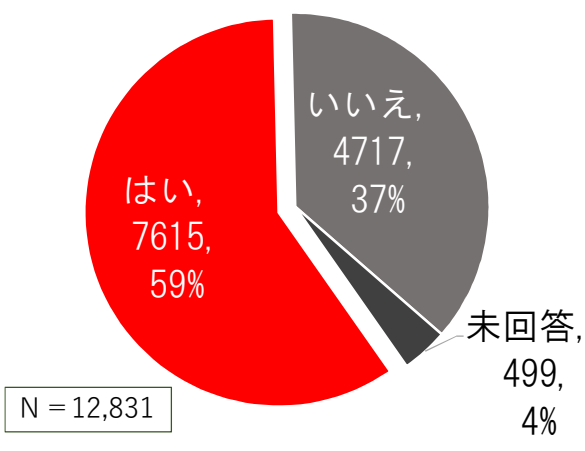


あなたの年齢は75歳以上？未満？



全回答者の75歳以上と未満の内訳

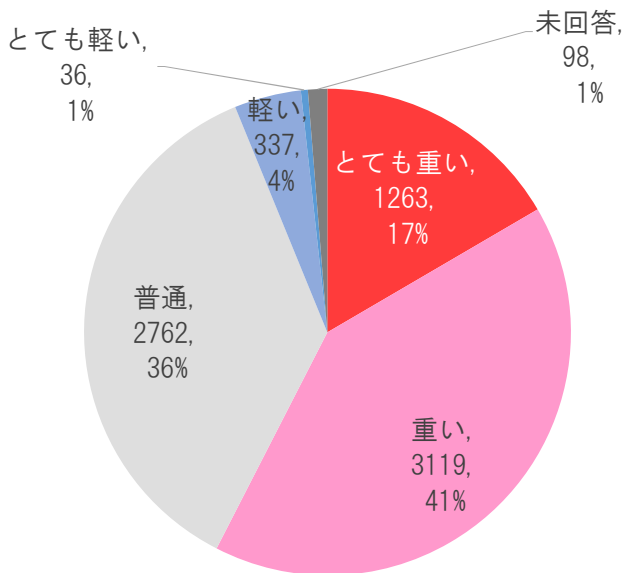
75歳以上の内2022年10月以降
2割になりましたか？



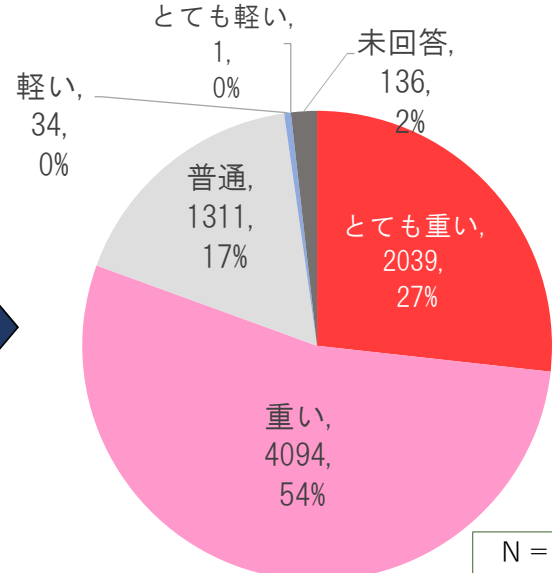
75歳以上のうち、2割になった回答者は、7,615人

75歳以上で2割になった人の負担感

2割前の負担感



2割後の負担感



N = 7615

(当事者の声)あまりにも重すぎる負担

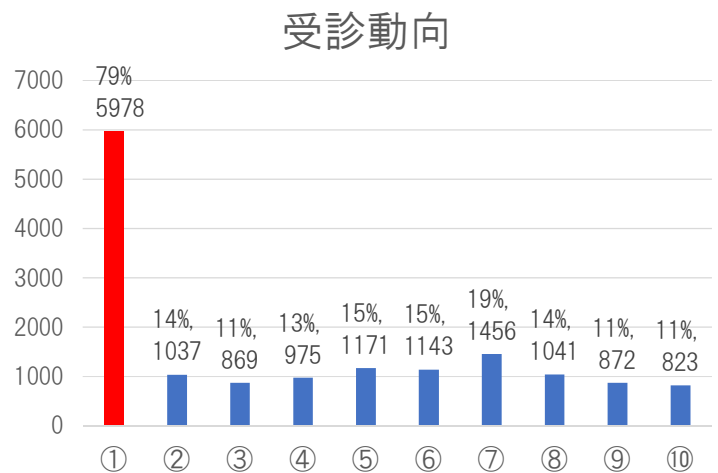
- 一回の支払金額を、2ヶ月に分割でカードで支払っています。
- 2割負担になり、生活に影響がないということはない。何を削るか、明確には言えないが、生活費全体の中で、節約することになる。
- 今回の2割への負担は、家計全体にとって重いし、他を削るしかないが、方法が見つからない。
- 医療費が急に高くなった。とりわけ薬代が高く感じる。1回で1万円を超えている。
- 2割になり負担をすごく感じる。受診料が増え、何かを削らなければならないと感じている。

(当事者の声)受診控え、医療を減らす

- 受診はしなくてはいけないと思っているが、負担は重いのでリハビリなどのサービスを減らそうか考えている。
- 負担増のラインのぎりぎりの人なのでとても重く受診の回数を減らすつもりです。年金は減らされ年寄りじめだと思えます。何とかしてほしいものです。
- 一割が二割になることは倍になることで、少しくらいだったら受診を控える方向になり、結果、手遅れになる可能性大となる。一割に戻してほしい！！
- 10月の薬は試しに2種類減らしてみたが、この先どうなるのか。

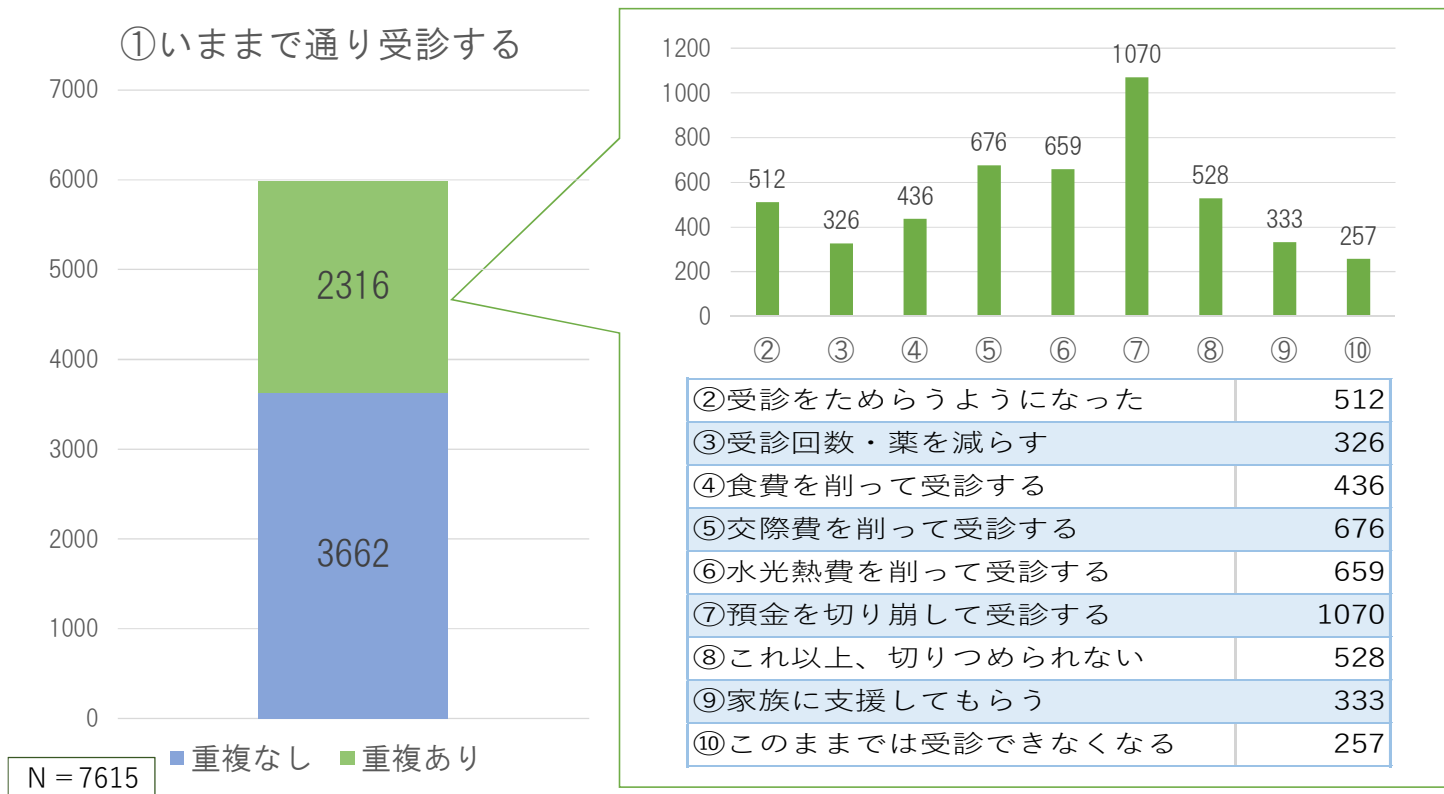
75歳以上で2割になった人の受診動向の変化(複数回答可)

項目	回答者数	%
①今まで通り受診する	5978	79%
②受診をためらうようになった	1037	14%
③受診回数・薬を減らす	869	11%
④食費を削って受診する	975	13%
⑤交際費を削って受診する	1171	15%
⑥水光熱費を削って受診する	1143	15%
⑦預金を切り崩して受診する	1456	19%
⑧これ以上、切りつめられない	1041	14%
⑨家族に支援してもらう	872	11%
⑩このままでは受診できなくなる	823	11%



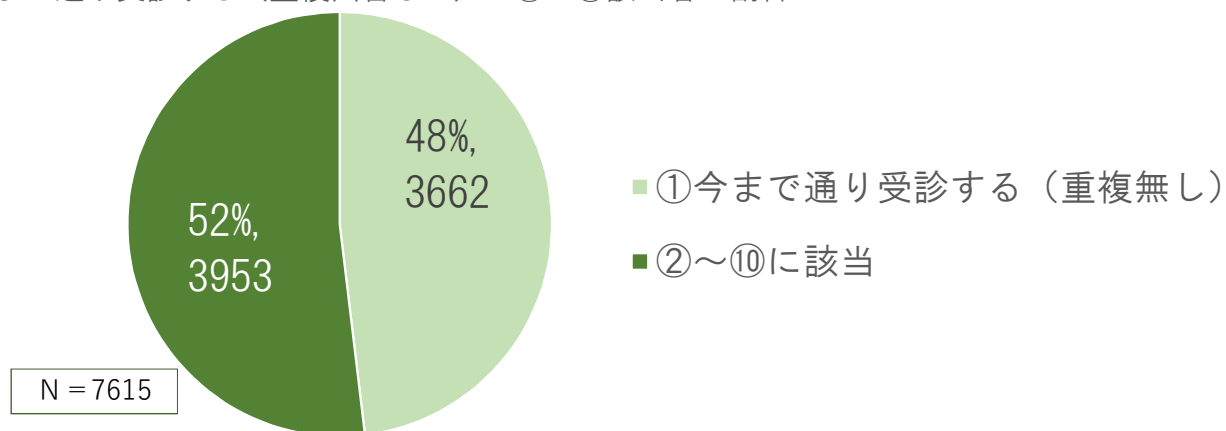
N = 7615

2割になった7,615人のうち「①今まで通り受診する」と回答したのは、5,978人で最も多かった。しかし、5,978人のうち、②～⑩を重複回答した人は2,316人いた。



52%は医療を削るか、生活を切りつめる

①今まで通り受診する（重複回答なし）と②～⑩該当者の割合



2割化になった人のうち約半分（52%）は、預金を切り崩したり、交際費や食費等の生活部面を削ること等を余儀なくされている。

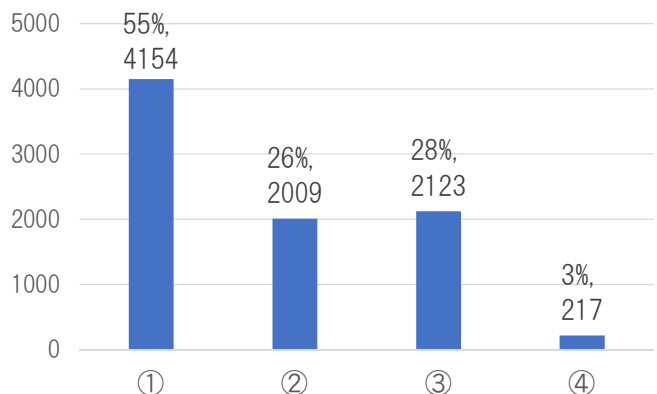
(当事者の声)医療の費用を減らすことはできない

- 受診せざるを得ない。お金よりも命が優先します。
- 病気で通っているため、回数を減らす事等できない
- 今回の2割への負担は、家計全体にとって重いし、他を削るしかないが、方法が見つからない。政府の対応に怒りを覚える。
- 必要な治療・薬なので受診しなければならない。負担が増えるのは苦しいが生きるために必要なもので他を削ってでも、と思う。
- 受診回数とか薬を減らすことは絶対不可能です。安心して受診できるような医療費の範囲にしてもらいたい。

75歳以上で2割になった人 配慮措置を知らない人が半数以上

(複数回答可)

項目	回答件数	%
①手続きしていない	4154	55%
②手続きは済んだ	2009	26%
③手続きの仕方が分からない	2123	28%
④手続きが煩雑で戸惑った	217	3%
手続きをしていない人で、手続きの仕方が分からない人		
①手続きをしていない	②手続きの仕方が分からない	51%
4,154	2,123	



配慮措置として、3年間に限り、1カ月の負担が3千円以上増えない措置が講じられた。医療費(総額)が増加した分のうち、3千円を超えた分は償還払いとなるが、受け取るためには、高額療養費の手続きが必要とされている。

しかし、手続きしたのは、わずか26%

しかも、手続きをしていない55%のうち、約50%の人が手続きの仕方が分からないと回答

(当事者の声)高額療養費の手続きが 分からない・知らない

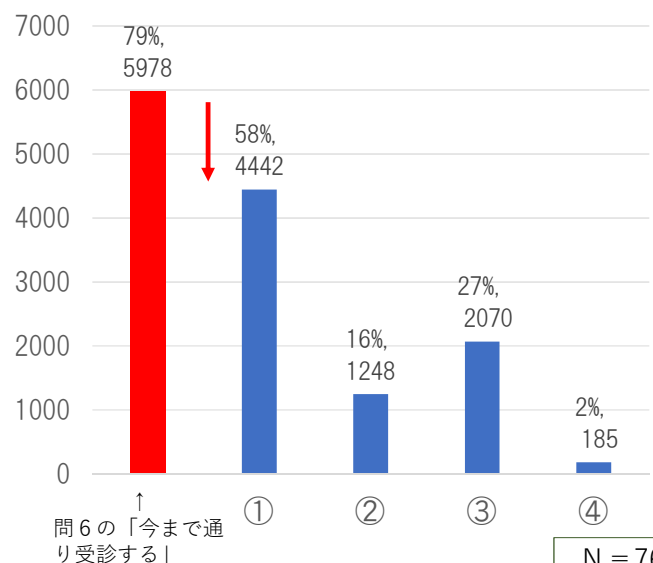
- 高額療養費については知っているが、申請書等は来ないし、見た記憶もない。診察代が増えており、今後が不安。
- 高額療養費の手続き書類は、見ていない。
- 高額療養費の申請書は届いていない。制度も知らなかった。
- 高額療養費の手続きについて、知らなかった。
- 年寄りにも手続き方法など分かるように説明してほしい。
- 高齢なので、高額療養費のこと言われてもわからない。
- 高額療養費の手続きをしなくても、自動的に医療費3000円以上は払い戻しされると思っていた。

75歳以上で2割になった人で3年後を予想して (複数回答可)

項目 (母数: 7615)	回答件数	%
①今まで通り受診できると思う	4442	58%
②受診できなくなるかもしれない	1248	16%
③受診回数・薬を減らすと思う	2070	27%
④受診できなくなると思う	185	2%

3年後には、配慮措置が終わり、完全2割化となる。
3年後を想像して、受診動向を訪ねたが、意外にも「今まで通り受診できると思う」が58%を占めた。

しかし、②~④の「受診ができなくなるかもしれない」、「受診回数・薬を減らすと思う」など、少なくない人が将来に不安を感じている。



N = 7615

問6では、「今まで通り受診する」が79%あったが3年後の予想では21ポイント減少した

(当事者の声)3年後が不安・未来が不安

- 配慮措置が終了すると、年金生活のため大変になる。
- 現在は仕事をしておりクリア出来てますが、将来は負担増には不安です。
- 今後重い病気になると、2割負担は大きな負担になると思う。心配です。
- 80歳になりました。今まで1割負担でした。大きな病気もせず、深く医療費について考えていませんでしたが、ここに来て二人とも終生つき合わなければならない病をかかえました。検査など今までにない程の金額になることも多く、先行き心配も多い。
- 障がいのある息子がいます。国保になっているので、その分も私たちが負担しているので、この先のことを考えると不安です。

(当事者の声)防衛費よりも福祉・社会保障を

- 国は国民を守ると憲法で言っている。ところが防衛と称して武器を購入して軍拡を図るのか。国民を守ることにはならない！医療費・教育費・福祉の費用を削っては国民を守れない！！
- 大軍拡に進み、続けている今の政府に怒り、年金を削り税金を増やし国民の命をそっちのけにしている。医療費負担介護保険制度の改悪。我慢できません。
- 軍隊は、国家権力を守るもので、国民の生命・財産をまもるものでないことは戦前・戦中を経験したものは良く知っている。沖縄がその証明です。岸田の軍拡、戦争準備はとんでもないこと。今に生きるものの医療、福祉、教育、貧困こそ取り組むべきであって、軍事産業、奉仕、アメリカの代理戦争に金を使うべきではない。

アンケート結果のまとめ

高齢者のいのち・健康・人権を脅かす75歳以上窓口負担2割化は中止を求めます。

① 2割になったことにより、負担感は大幅に引きあがった。

「とても重い」10ポイント、「重い」13ポイント、それぞれ増加した。
一方、「普通」が19ポイント、「軽い」が4ポイント、それぞれ減少した。

② 約8割が「今までどおり受診する」と回答しているが、命に直結する医療を削ることができないから

③ 預金を切り崩して受診する（18%）→預金が底をついたら？

④ 光熱費を削って受診する（15%）、食費を削って受診する（13%）→生活部面等を削ることを余儀なくされている

⑤ 受診をためらうようになった（14%）、これ以上、切りつめられない（14%）→手遅れ死亡の予備軍？

⑥ 長生きは罪？高齢になってお金がなければ医療にかかれない？

お金でいのちにふりいをかける制度は断じて認められない。すべての人に医療を！
かけがえのないすべてのいのちを守り、大切にす政治への転換を強く求める

参考資料

（当事者の声） 代表的なその他の声①

- 年金暮らしの高齢者にとって、医療費の負担は大変です。今までの倍の金額は厳しいです。
- もう少し生きていたいと思もあるので、医療費がかかっても仕方がないと感じている。現役世代も大変なので、あまり負担をかけるのは申し訳ない。なかなか複雑な問題。
- 通院治療であればどうにか通院可能であるが、入院時の治療費については難しさを生じるかもしれない。医療費負担額の年功額が200万をわずかに超えた程度の物には厳しさを感じる。
- 高齢になれば多くの人が病院に通うようになる。負担はせねばならないと思うが経済的に苦しくもなっている。高額療養費はありがたい制度、3年間だけでなくずっと続けてほしい。

（当事者の声） 代表的なその他の声②

- 年金生活者にとって、今迄の倍の医療費は生活にも支障が出て来るので大変です。おかず一品減らす生活になります。
- いろんな物が値上げされてます。これ以上、負担が上がれば病院にかかるのを考えなければならぬと思います。
- 年々、老化は進んで行きます。安心して医療を受けられるようにならないと命があぶなくなります。命は金次第になっていくのが心配です。
- もちろん負担は少ない方が助かりますが若い世代に負担が重くかかるのも困りますね
- 完全に2割になったら医療にかかれぬ人が増えるのでは、病気が悪化する

(当事者の声) 代表的なその他の声③

- これから先が心配。入院するようなことがあったらとても不安です。
- 高齢者は様々な病気を抱えている。年金を減らしながら医療費負担をあげるのは許せない。高齢者は戦後日本の復興を頑張ってきた。政府は年寄りいじめをやめろ
- 収入にあまり違いがないのに、線引きで2割になることに納得がいかない
- 保険料を払っているのに、更に窓口での負担が増えるのはおかしいと思います。高齢者は収入が少ないのに負担だけが上がるのは本当にやめてほしいです。将来に不安しかありません。

3. 「現役世代と負担を公平化する」の理屈は成り立たない

(1) 収入に占める医療費の比率は、1割の現在でも現役世代よりも75歳以上の方が圧倒的に高い



4. 健保財政の困難の根本は国庫負担割合の引き下げにある

1. 1984年から始まった国庫助成金の引き下げは、市町村の国保財政を悪化させ、これを賄うため保険税を増額。
2. 高すぎる国保税は、滞納世帯を急増させ、さらに国保財政を逼迫させる悪循環へ。
3. 滞納世帯への資格証明書や短期保険証の発行も増加し、病気になっても医療が受けられず手遅れにいたる事例も増加。
4. 後期高齢者医療制度導入時に国庫負担45%から36%へ。現役世代への肩代わりと高齢者自身の負担に転換する仕掛けへ

